

ワクチン情報文書

狂犬病ワクチン： 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/vis をご覧ください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

狂犬病ワクチンは狂犬病を予防できます。

狂犬病は、発症した場合、ほとんどの場合で死に至る深刻な病気です。

狂犬病ウイルスは中枢神経系に感染します。症状は、ウイルスに感染してから数日から数年後に起こり、せん妄（混乱）、異常行動、幻覚、水恐怖症（水への恐怖）、不眠症（睡眠困難）などがあり、昏睡状態になり死に至ります。

感染した動物に咬まれたり、引っかけられたりすることによって、その感染した動物の唾液や神経組織に接触した際に、狂犬病ワクチンなどの適切な治療を受けられない場合、狂犬病になることがあります。

2. 狂犬病ワクチン

狂犬病への曝露のリスクが高い特定の人、例えば感染している可能性がある動物を扱う人などは、曝露があった場合の狂犬病の予防対策としてワクチン接種を受けることが推奨されます。狂犬病ウイルスに曝露するリスクが高い場合：

- 狂犬病ワクチンを0日目と7日目に2回接種する必要があります。
- リスクの程度によっては、最初の2回の投与から3年以内に1回以上の血液検査を受けるか、または追加接種を受けるよう勧められることがあります。詳しくは、担当の医療従事者にお尋ねください。

狂犬病ワクチンは、曝露後に接種することで、感染を予防できます。狂犬病への曝露後または曝露の可能性のある場合は、咬傷部位（咬まれたり、引っかけられた傷跡）を石鹸と水で十分に洗浄する必要があります。担当の医療従事者または地域の保健所がワクチン接種を推奨している場合は、曝露後できるだけ早く接種する必要がありますが、症状が出る前であればどの時点でも効果的です。一旦症

状が出ると、狂犬病ワクチンは狂犬病の予防としての効果はなくなります。

- 過去に狂犬病の予防接種を受けたことがない場合は、2週間にわたって4回の狂犬病ワクチンを接種する必要があります（0、3、7、14日目に接種）。また、狂犬病免疫グロブリンと呼ばれる別の薬を、狂犬病ワクチンの初回接種日またはその直後に投与する必要があります。
- 過去に狂犬病の予防接種を受けたことがある場合は、通常、曝露後の予防として2回のワクチン接種のみ必要となります。

狂犬病ワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- 過去に狂犬病ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある
- 免疫力が低下している
- クロロキンまたはクロロキンに関連する薬剤を服用している、または服用する予定がある
- 過去に狂犬病の予防接種を受けたことがある（担当の医療従事者は、いつあなたがその予防接種を受けたかを知る必要があります）

場合によっては、担当の医療従事者は、狂犬病ワクチンの（曝露前）予防接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。あるいは、狂犬病ワクチンの接種前後に医療従事者が血液検査を行い、狂犬病に対する免疫のレベルを判断する場合もあります。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

風邪などの軽い病気にかかっている、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してから(曝露前)狂犬病ワクチンを接種するほうがよいでしょう。狂犬病ウイルスへの曝露があった場合は、併発疾患、妊娠、授乳、免疫力低下の有無にかかわらず、ワクチン接種を受ける必要があります。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- ・狂犬病ワクチン接種後には、注射した部位の痛み、赤み、腫れ、かゆみ、頭痛、吐き気、腹痛、筋肉痛、めまいなどの反応がみられることがあります。
- ・蕁麻疹、関節の痛み、または発熱は、追加接種後に起こることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、9-1-1に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System(ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 詳しい情報を知るには？

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention(疾病管理予防センター:CDC)にお問い合わせください。
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)または
 - CDCの狂犬病に関するウェブサイト www.cdc.gov/rabies をご覧ください。

